

領土の再編と地域研究

-南スーダン独立後「スーダン地域」再考の試み-

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
マルチメディア室 (304) にて開催

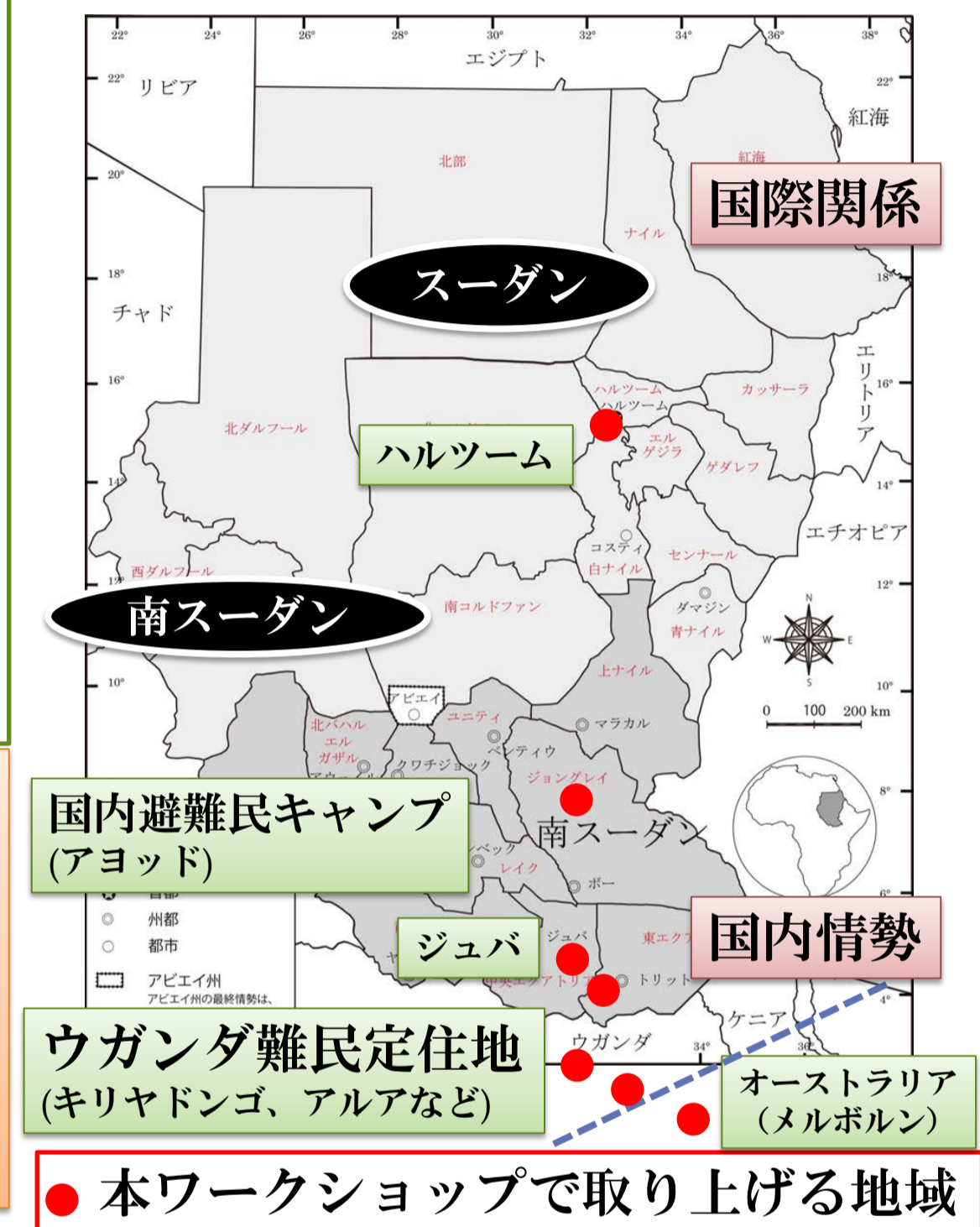
■本企画の背景■

2011年の南スーダン共和国の独立は、長年に渡った第一次・第二次スーダン内戦の一応の終結として位置付けられています。2005年に調印された南北包括和平合意では、はじめて紛争解決手法として南部スーダン地域の分離独立が採用されました。この地域の行方は、研究者のみならず国際機関やアフリカ地域、ならびに独立要求を掲げている各国の反政府組織にも注目されています。

しかし、南スーダン独立後4年が経過した今日、スーダン・南スーダンでは、独立以前にも増して深刻な紛争が各地で多発し、その影響は近隣諸国や国際社会に広がっています。特に2013年12月に南スーダンで勃発した紛争では、多数の難民・国内避難民が発生しました。避難先となった地域で、人々はどのような葛藤や衝突の中を生き、どのように自分たちの暮らす「地域」を捉え、新たなアイデンティティや社会秩序と向き合っているのでしょうか。

■目的■

本ワークショップでは、南スーダン独立に伴う国家領土の再編以後、スーダン・南スーダン地域が抱えている諸問題の変化と連続性について多角的な観点から分析を試みます。国際関係や経済活動をはじめ、難民のアイデンティティや社会組織、言語などの幅広いテーマから地理的領域にとらわれない「地域」のあり方を再検討し、領土の再編と地域研究、そしてスーダン地域の紛争解決・平和構築の可能性についての議論を行います。



■発表タイトル／担当者〈専門分野〉■

- 「体制によるスーダン人アイデンティティ再構築の試み：南スーダン独立後のバシル大統領の演説に着目して」／モハメド・オマル・アブディン〈政治学、国際関係学〉
- 「南スーダンの国内情勢と強制移動－2013年12月以降の紛争と難民の移動」(仮)／村橋勲〈人類学、アフリカ地域研究〉
- 「難民の移動と活性化する経済活動－ウガンダの難民定住地と国境におけるマーケットの拡大」(仮)／村橋勲〈人類学、アフリカ地域研究〉
- 「移動から生まれるローカル性：南スーダン独立後におけるハルツームのイメージを巡って」(仮)／飛内悠子〈難民・強制移動研究、人類学〉
- 「難民居住区における社会組織の再編と創造：南スーダンの国内避難民キャンプとウガンダの難民定住地の事例を中心に」／橋本茉莉〈人類学、アフリカ地域研究〉
- 「リンガフランカと境界：ヌビ語とジュバ・アラビア語の場合」(仮)／仲尾周一郎〈言語学〉

■コメンテーター■

栗本英世(大阪大学大学院人間科学研究科教授)〈社会人類学、アフリカ地域研究〉